

## 2020年度 清風荘拠点 事業計画

定員：施設入所 90名・短期入所 20名

福祉施設や高齢者を取り巻く環境は、少子高齢化により大きく変化をしている。人材確保もその一つである。待機者の増加、介護離職ゼロの実現を目指し、本年10月開所予定で地域密着型小規模特養の建設が始まっており、更に人材不足は深刻化する。昨年7月から中国技能実習生4名の受入れを行い、新規学卒者の入職等もあり少しは解消をしたが、夜勤回数は相変わらず基準を超えている。このような状況下でより一層今、働いている職員の育成や定着、ケアの充実が求められる。

在宅サービスにおいては、独居や老老介護の高齢者世帯が増加し、「住み慣れた地域で最後まで自分らしい暮らしを送りたい」との思いに応えるためにも地域にとって「無くてはならない、当てにされる」事業展開をしていくために下記の重点項目に取り組んでいく。

### 基本理念

やさしさと 笑顔まごころ なごやかに 憩いうるおう ゆたかなくらし

### 基本活動方針

“❤️好きです！ゆたか会”をスローガンに「魅力あるゆたか会をつくる」「働き方改革の実現」に向けて「よりそい運動」に取り組む

- ・相手の気持ちを考えて関わっていきこう
- ・時間があったら隣に座ろう

### 1. サービスの質向上

- ①キャッチフレーズ『好きですゆたか会』の具現化のため「よりそい運動」を各部署で取り組む
- ②利用者、家族と共にケアプランを作成し、プランの達成を利用者と共によるこぶ
- ③短期入所希望者については、法人内や市内事業所との連携を密にし、速やかに希望に応える
- ④終末期を迎える利用者へ多職種連携による看取りケア向上に取り組む
- ⑤ルーティンワークについては、各グループ共通の業務手順書を作成し、業務効率化を図る
- ⑥技能実習生の介護サービス実践トレーニングをとおして個々のコミュニケーション能力を高める
- ⑦目標管理活動、3S活動、個人面接の実施により職員相互の問題解決能力、コミュニケーション能力、チーム向上を目指す
- ⑧職員間の迅速な情報共有化ができるシステムを検討し、実施する

### 2. 財政基盤の安定と設備改修

- ①各事業の適切な収益性の確保に向け、計画的かつ効率的な事業運営を行う
- ②各事業の利用率や予算の執行状況を共有化するために事務センターと連携を図る
- ③退所後、速やかな入所による収益アップを図る
- ④浴室改修プロジェクトで浴室改修の検討を継続する
- ⑤大規模修繕として清風荘4階屋上の防水工事を実施する
- ⑥老朽化に伴うパソコン、LAN幹線の更新
- ⑦ICT活用による業務効率化の検討をする

### 3. 働き甲斐のある職場の実現のために

- ①職員処遇の向上とキャリアパスの具現化に努め、就労定着を目指す
- ②職員のメンタルヘルスと風通しのよい組織風土をつくる
- ③介護職員の身体的負担の軽減と利用者への安全性の確保のための福祉機器の導入を図る
- ④ワークライフバランスに配慮した職員採用と勤務体制を推進する
- ⑤障害者職業生活相談員による定期的な個別面談を実施する

### 4. 地域における公益的な取り組み

- ①地域共生社会の実現に向けた地域の拠点としての役割を果たす
- ②子どもの居場所づくりとして「フリースペースゆったり」の提供を清湖園と共に行う
- ③小規模法人ネットワーク化協働事業でのモデル施設として災害時における事業継続（BCP研修）と福祉避難所訓練の実施で災害時の機能強化を確立する

## 2020年度 さわの風拠点 事業計画

定員（登録）：施設入所 29 名・短期入所 1 名 小規模多機能 18 名

人手不足が深刻化する中で期待されるのが外国人材とシニア人材です。中でも「アクティブシニア」と呼ばれる元気高齢者の進出が注目されています。介護現場では利用者介護に直接かかわる専門的な仕事のほか、見守り、部屋の掃除や食事の片づけ、ベッドメイキングといった生活全般の雑多な業務が混在しているのが現状。そこで本来の介護業務と切り離れた周辺業務を専門性も加味しながらいくつかの仕事に分け、シニア人材には経験や体力や時間に合わせて「介護助手」として担ってもらい、その結果、介護職が本来の介護業務に注力できるような取り組みが必要です。そのためにも地域で支援を必要とする高齢者やニーズに柔軟に対応するため、本体施設、法人内各事業所との連携をとりながら以下の取り組みを実践していきます。

### 基本理念

「住み慣れた家で、顔馴染みのいる地域で暮らしたいそんなささやかな願いを大切にしたい」

### 基本方針

“❤️好きです！ゆたか会”をスローガンに「魅力あるゆたか会をつくる」「働き方改革の実現」に向けて「いきいきとさわの風」に取り組む

- ・ユニット一丸 部署間連携
- ・互いへの思いやり
- ・信頼関係

### 1. サービスの質向上

- ① 自立支援に基づく根拠ある介護技術を身につけ、尊厳を大切にするケアに努める。
- ② 対象者の尊厳に十分配慮しながら日々の介護から終末期において「あきらめない介護」の実践をする。
- ③ 認知症を十分に理解しケアの充実を行い、勉強会の開催、研修への積極的な参加に努める。
- ④ 介護スタッフの同一ケア（サービス）が提供できるようにケア手順書を作成しOJTにも活用する。
- ⑤ 技能実習生および職員同士が円滑にコミュニケーションをとれるよう研修会・勉強会を通じて共有する。
- ⑥ 目標管理活動・3S活動が無理なく円滑に行えるように施設全体で取り組む。

### 2 財務基盤の安定

- ① 地域密着型特養（短期入所）、小規模多機能登録定員の安定により収入増を目指す。
- ② 職員の定着を図り適正な人員配置による人件費に係るコストの抑制を図る。
- ③ 各関係機関と法人内事業所と情報交換を図り、空床管理と新規受け入れを積極的、効率的に行う。
- ④ ユニット、多機能間の適正な運営を行うため更なる連携を強化する。

### 3 働き甲斐のある職場の実現のために

- ① 職員の精神的な負担軽減と風通しのよい組織風土をつくるため定期的な面接・面談の実施。
- ② 介護職員の身体的負担の軽減と利用者への安全性確保のための福祉機器の検討と活用。
- ③ シニア層が担う介護現場における業務の見直し。「介護の機能分化」の推進。「介護補助」の考え方を導入する。

### 4 地域福祉と地域貢献

- ① 中重度・認知症高齢者の在宅支援・ご家族支援に積極的に取り組む。
- ② 地域との交流を深めると共にボランティアの積極的な受け入れや参加に努める。
- ③ 災害時における事業継続と福祉避難所としての機能強化を図る。
- ④ 地域との関係をつなぐため意見交換の場として運営推進会議を定期的で開催する。
- ⑤ 高島市、高島市社会福祉協議会との連携し子供の居場所づくりとして「フリースペースさわのそよ風」の提供を継続して行い、ボランティアの関わりを増やしていく。

## 2020年度 やまゆりの里拠点 事業計画

(定員：小規模特養 30 床・短期入所 6 床・通所 18 名・居宅・訪問)

(定員：地域密着型小規模特養 20 床・短期入所 2 床)


福祉施設を取り巻く環境、高齢者を取り巻く状況は刻々と変化している。国では高齢化に伴って増大する介護費や若年者の保険料負担抑制等の観点を踏まえて、介護保険制度についての議論が続いている。施設の所在地である朽木地域は、人口 1,700 人を割り、65 歳以上はほぼ半数を占める。高島市においても人口減少と高齢化率の上昇は否めない。とりわけ、介護人材不足は深刻である。今年度も人材確保に取り組むとともに、職員個々の研鑽を積み、より質の高いサービスが提供できるようチームで取り組んでいく。

地域福祉の拠点として、地域との繋がり、他職種との連携を大切に「これからこの地域をどうするのか」「何ができるのか」を共に考え「“できない”ではなく、まずは動いてみる。」をモットーとして積極的に取り組んでいく。

### 基本理念

「美しいところで 安心して 楽しく暮らせるように・・・」その担い手として、地域住民に公平に接し、絶えず人権尊重の理念に基づいた質の高い福祉サービスを提供する。

### 基本活動方針

“ 好きです！ゆたか会”をスローガンに

「魅力あるゆたか会をつくる」「働き方改革の実現」に取り組む。

“みんなでやまゆり！！”を合言葉に

「職員とご利用者・ご家族・職員同士・利用者同士・施設と地域、やまゆりの里に関わるすべての人が、良い関係で繋がれるよう行動する」

#### 1. サービスの質の向上をめざし

- ① 利用者個々に応じた関わりの時間をもつ。(看取りを含め)
- ② 施設全体、部署間など必要な情報を共有するツール作成と実行。
- ③ チーム会議の毎月開催の実現。(勤務表に反映)
- ④ 笑顔であいさつ、プラス、一言添える声かけに努める。
- ⑤ 地域密着型運営推進会議を活用し、家族・地域との連携を密にする。

#### 2. 財務基盤の安定と事業継続に向けて

- ① 業務の効率化を進め、適切で速やかな施設利用率の向上に努める。
- ② 朽木ホームヘルプステーション再開に向けて人材確保と育成に努める。
- ③ 基本協定に基づき、高島市との定期的な協議を継続する。(施設設備修繕計画)

#### 3. 働き甲斐のある職場の実現のために

- ① 「仕事の楽しさ」をチームで実感できるよう、施設行事を工夫する。
- ② 「人を大切に、個を活かす」ため職員面接を実施し、風通しのよい職場をめざす。
- ③ 仕事とプライベート、オン・オフの切り替えを行う。(現状脱却)
- ④ 何でも話し合える時間と場の提供。(時間の上手な使い方)

#### 4. 地域における公益的な取り組みとして

- ① 福祉避難所として地域と連携し非常時における速やかな対応に備える。
- ② 住民福祉協議会のメンバーとして地域の包括ケアシステムの一端を担う。
- ③ 施設共有スペースの開放と備品の貸出しを行う。
- ④ 地域サロン活動へ積極的に参画する。

# 2020年度 ケアハウスじゅらく 事業計画


定員：20名（内2人部屋1室）

ケアハウスじゅらくは開設20年を経過し、入居者の高齢化が進み要介護の入居者が増え、介護保険サービスを利用しながら自立した生活をされている。昨今の待機者は、地域で独居生活をされている方の入居希望が増え、退所後の速やかな入居に繋がり満床である。第二の人生の住まいの場として入居後も住み慣れた地域や顔馴染みの関係で、安心・安全・豊かな生活の場となるよう自らサービスを選択し、「身体的自立」、「精神的自立」、「社会関係の維持・拡大」の三本柱を基本とし総合的に援助が出来るよう事業を実施する。

## 基本理念

自立した生活の充実、ゆとりのある暮らし、安心して暮らせる生活

## 基本方針

“好きです！ゆたか会”をスローガンに

- ・入居者の自主性、自立性を尊重し、一人ひとりの生活を支えるケアを提供する
- ・生活しやすい居住空間、地域との結びつきを大切にする
- ・入居者の趣味・教養・娯楽等への協力と支援を図る

### 1. サービスの質の向上

- ①入居者のプライバシーに配慮しながら社会参加、地域との交流を促進する
- ②生活する上でのサポート体制を充実するために高島市社会福祉課や民生児童委員との連携のもと“命のバトン”の継続ならびに在宅福祉サービスの利用と入居者の医療対応や状態にあわせて包括的に特養清風荘の支援を継続する
- ③定期的に運営懇談会を実施し、入居者の意見や要望を反映した運営に努める
- ④認知症予防のための余暇活動や臨床心理士の面接によるセラピー、理学療法士による健康体操等専門家との連携を図る
- ⑤要介護の入居者に転倒防止の「居住環境のチェック」の実施と検証ならびに助言を継続する
- ⑥目標管理活動、3S活動、個人面接の実施により職員相互の問題解決能力、コミュニケーション能力、チーム向上を目指す

### 2. 財務基盤の安定と設備改修

- ①予算の執行状況を共有化するために事務センターと連携を図る
- ②利用料滞納者については、返済計画を立て回収をする
- ③経年劣化に伴う施設整備として浴室改修ならびに共用部空調機交換を実施する
- ④日々の経費節減に努める

### 3. 働き甲斐のある職場の実現のために

- ①職員処遇の向上とキャリアパスの具現化に努め、就労定着を目指す
- ②職員の負担軽減をするためのメンタルヘルスと風通しのよい組織風土をつくる
- ③ワークライフバランスに配慮した職場環境を推進する
- ④職員が働きやすい職場は、利用者が安心して楽しく過ごせる場であることを常に意識する

### 4. 地域福祉と地域貢献

- ①地域との共催行事や活動への参加を積極的に行う
- ②災害時における事業継続と福祉避難所としての機能強化を図る

## 2020年度 清湖園 事業計画


定員：施設入所60名・生活介護60名・短期入所4名・日中一時3名

本年度は障害者総合支援法が全面施行されて3年目を迎えます。昨年10月には消費税増税による報酬改定がありましたが入所定員を57名に抑えた結果、予定していた収支には至りませんでした。本年度は当初から58名の定員を確保し稼働率を上げて入りを図り、法人内異動の人材確保により利用者の高齢化や医療的ケア者（児）の受入れ等効果的にサービス提供を行い地域生活支援の拠点としてのニーズに添えていきたい。在宅利用者とその家族のニーズに対応してサービスを持続的に利用できる環境整備を進めていかなければならない。加えて地域包括ケアの資源としての役割も果たし、地域に「必要とされる施設づくり」として下記の基本方針を鑑み施設運営を行う。

### 基本理念

重度障害児者の支援施設として「その人らしい生活の支援」の実現をめざす

### 基本活動方針

“ 好きです！ゆたか会”をスローガンに「魅力あるゆたか会をつくる」「働き方改革の実現」に取り組む。

【重度障害児者の支援施設として、在宅生活支援のニーズに添える】

【3S活動の実践とプラス2Sの検証により働きやすい環境の整備と業務プロセスの習慣化】

#### 1. サービスの質の向上に務める

- ・利用者視点で求められた実現可能な「ケアプラン」の作成と「支援させていただく」という行動姿勢を厳守する。
- ・プロジェクトによる職員相互の「問題解決力」「コミュニケーション能力」や「チーム力」の向上を目指す。
- ・品質管理委員会による業務手順書の検証とその実践
- ・利用者の理解を得ながら「できるサービスと出来ないサービス」の見直しを行い、「量から質」へのサービス提供をおこなう。

#### 2. 財務基盤の安定を図り事業継続のための施設設備改修計画の樹立

- ・予算執行状況の把握を行い、「入を量って出を制す」に努め、安定した財源の確保を図る。
- ・電話・ケアコールシステムの更新計画の検討をおこなう。
- ・利用者の安全と安心に配慮し介護職員の身体的負担軽減のため浴室の改修工事の検討を行う。

#### 3. 働き甲斐のある職場の実現

- ・働きやすい職場環境に努め就労定着を目指す。
- ・職員の負担軽減のため質の高い介護職員・重度心身障害者（児）の受入れの為に看護職員の人材確保に努める。
- ・各種ハラスメントの情報を収集、共有し防止措置をとり職場環境に配慮して職員のモチベーションを維持高める。

#### 4. 地域における公益的な取組の実施

- ・生活困窮者への支援として無料または低額な料金でサービスを提供する。
- ・障害者雇用の促進に取り組む。・フリースペースの活用を清風荘と共に行う。
- ・作業療法士、音楽療法士の地域支援活動を行う。
- ・清風荘拠点と連携し非常時における事業継続と福祉避難所としての機能強化を図る。

## 2020年度 湖西総合在宅サービスセンターほろん 事業計画

事業名：就労継続支援 B 型（定員 32 名）、就労移行支援（定員 8 名）、就労定着支援  
訪問介護、居宅介護支援、計画相談、社会参加、働き・暮らし応援センター

昨年 12 月より、就労継続支援 B 型と就労移行支援が多機能型事業所として定員と名称の変更を行い、更に両事業所の移転を行い事業の連携を図ることとなりました。また新たに、働き・暮らし応援センターでは「被保護者就労支援事業」と「自立相談支援機関就労支援事業」を高島市より業務委託を受け、今年度は、就労支援事業の更なる強化を目指し、新たなスタートをします。

昨年度、ほろんプロジェクトとして困難事例検討を行い、「80/50 問題」の他、一家丸ごと支援の必要な家庭があり、複数の分野のサービスの連携が高島市の中でも存在することが確認されました。この結果をふまえ、各事業の強化はもちろんであるが事業を超えた支援の連携ができるよう、引き続き事例検討会や地域ケア会議の場をもうけ、マネジメント機能の強化と多職種連携の支援のあり方を確立していきます。それぞれの分野での専門性を高め連携することにより、「ワンストップ」の断らない相談窓口として地域に信頼される事業を展開します。

### 基本理念

障害や高齢により様々な福祉サービスが必要になっても、仕事や活動を通じ、いつまでも意欲を持って、いきがいとやりがいのある、その人らしい生活が送れるよう支援をする。

### 基本活動方針

“♥️好きです！ゆたか会”をスローガンに「魅力あるゆたか会をつくる」「働き方改革の実現」に向けて。

ほろんテーマ『すべての壁をとっばらえ！！』

活動方針「認め合い」「助け合い」「感謝の気持ち」

- 1、各事業の理解をし、互いに意見を出し合い、個々の意見を大切にする。
- 2、所属する事業以外のことも考え、助け合える職場作りを目指す。
- 3、笑顔で「ありがとう」といえる職場環境をつくる。

### 1. サービスの質の向上

- ①地域ケア会議や事例検討会の積み重ねをし、役割分担や情報共有を行い、複数の分野のサービス連携を行う。
- ②地域における資源を活用したマネジメントができるよう、地域資源のマップ化へ向けて取り組む。
- ③より一層の企業就労を促進するため、働き・暮らし応援センターと就労移行支援及び就労継続支援 B 型の事業連携を強化する。
- ④各種資格取得のための研修や、接遇・マナー研修に積極的に参加する。

### 2. 財務基盤の安定

- ①関係機関との連携の強化により、利用者の確保をする。
- ②訪問介護事業の勤務シフトの見直しを行い、効率的な訪問を行う。
- ③安定的な経営のため、就労移行支援事業において、より実践的な訓練を通して就労に役立つスキルを身に付け、利用者の就労実績を増やし定着を目指す。就労継続支援 B 型では、工賃仕事の確保のため、施設外就労も視野に入れ平均工賃アップをねらう。
- ⑤各種委託業務について、それぞれの要綱を理解し適切な運用をはかる。

### 3. 働き甲斐のある職場の実現

- ①それぞれの事業を思いやり、認め合い、協力する姿勢。
- ②日常的な声かけや、定期的な職員面談を実施し、職員が話しやすい環境づくりに努める。
- ③全員参加型の月例会を活用し発表の場を設けることにより、個々の役割と達成が実感できる機会を作る。


### 4. 地域福祉と地域貢献

- ①地域で行われるサロンや行事に積極的に参加し、顔の見える関係づくりを行う。
- ②男性の軽度要介護者や引きこもりがちの人など、ほろんの特性を生かした居場所づくりを目指し、地域住民が相談しやすい環境づくりを行う。
- ③旧ほろんをボランティアや社会参加の拠点として幅広く活用する。各種奉仕員養成講座を開催し、高島地域における、手話奉仕員や音訳奉仕員の増員に努める。

## 2020年度 法人事務センター 事業実施計画

法人事務センターでは、事業経営の透明化とガバナンスの強化を一層図り、法人5拠点での活動がより円滑に行えるようバックアップを行う。また、地域・地域資源とのネットワークづくりを主体的に取り組んでいく。

重点課題としては、「魅力あるゆたか会づくり」のため、人材の確保、地域貢献、業務省力化、内部牽制体制の構築・強化を柱に下記の重点実施7項目とする。

1. “ 好きです！ゆたか会”をスローガンに「魅力あるゆたか会をつくる」「働き方改革の実現」に取り組む。  
＝事務活動方針＝  
～我々の存在意義を考え共有・協働する～
  - ・さまざまなニーズに対応する（スタッフ個々の専門性の向上に努める）
  - ・情報共有を活性化し創造的に関わる（相互理解と相互連携の精神で協働する）
2. 安定した人材確保のため、法人の取組み（ゆたか会の魅力）をホームページやSNSで積極的に発信するとともに、求人活動ツールの効率的な利用、学校訪問等を行う。また、外国人介護人材の活用を有効かつ継続的に行えるよう関係機関との連携を強化する。
3. 防災対策（BCP）を強化する。これまでの防災訓練（避難訓練、炊出し訓練、防災教育）に加え、地震等の大規模災害を想定した事業復旧・再開訓練（計画）に取り組む。
4. 業務省力化を促進させるためIT管理を確実に実行する。また、外国人介護人材や高齢者、障害者雇用等ますます多様化する職員構造を見据え、あらゆる職員が使用しやすい介護記録ツールやICT基盤の整備検討等、業務効率・生産性の向上を考えた労働環境整備を推し進める。
5. 人材確保難や介護保険事業を中心とした不均衡な収支バランス等、法人を取り巻く環境が厳しい中、修繕計画に基づく大規模修繕等の優先順位を常に評価し、計画的な資金運用と収支バランスのとれた運営が行えるよう経営指標データの算出を適宜行う。
6. フードサービス  
管理栄養士及び調理員の人材確保が困難にある現状を踏まえ、業務改善・業務省力化を図る。また、業務標準による安全でおいしい食の提供を継続する。
7. 設備資金借入金の償還（さわの風・清湖園・ほろんの建設分）が遅滞なく行えるよう資金計画を進める。

設備資金借入金残高

（単位：円）

借入償還拠点	さわの風	清湖園	ほろん	法人全体
借入金額	200,000,000	80,000,000	70,000,000	350,000,000
借入期間	2011.7.12～2036.7.10 (25年間)	2005.9.12～2025.9.10 (20年間)	2015.10.16～2040.10.10 (25年間)	
2020年度当初借入残額	147,784,000	23,940,000	58,539,000	230,263,000
2020年度元金償還額	9,048,000	3,990,000	2,844,000	15,882,000
2020年度期末借入残高	138,736,000	19,950,000	55,695,000	214,381,000

## 2020年度 法人事務センターフードサービス係 事業実施計画

管理栄養士・栄養士及び調理員の人材確保が困難にある現状を踏まえ、業務改善・業務省力化を図る。また、業務標準による安全でおいしい食事の提供を継続する。

ご利用者の「食べたい」気持ちを大事にし、疾病や感染症予防のためにも栄養状態よく過ごしていただけるよう取り組む。

### 1. 業務の標準化

①目標管理活動で取り組んだ行事食や面前調理の手順書を活かし、引き続き、多職種協力のもと少ない人員でもご利用者に喜んでいただける季節感のある行事食に取り組む。また、今年度は調理師によるご利用者とのお菓子作りを実施する。

②食品衛生法改正による HACCP 制度化（義務化）の本格始動（2021年6.1～）に向けて、一般衛生管理（原材料の管理・設備の整備・調理者の衛生および体調管理）と重要管理（加熱温度・冷却温度・盛り付け、二次汚染の防止）のための衛生管理計画の作成を衛生研修会や3S活動の具体的なテーマとして進めていく。各項目について、「問題があった時にどうするか」を追加する。必要な時に必要な箇所を誰もがすぐに確認できるようファイリングして共有する。

③各拠点の給食業務のマニュアルを整備する。さわの風は一人作業のため、担当者が情報共有し業務を円滑に行えるよう話し合いの場をもつ。やまゆりの里も担当者が少人数であるため会議の設定が難しい時もある。チームワークよく業務を継続できるようマニュアルを確認しながら、ムリ・ムダ・ムラがあればその都度話し合う。

### 2. 栄養業務の改善・省力化

#### ①年間の献立作成

今までの実績を活かして、予め年間献立を作成しておき、献立作成にかかる時間を短縮する。

#### ②各種帳票書類の見直し

帳票書類やその様式等を点検し、無駄を省く。

#### ③ソフト食の味や食べやすさの改善

ミキサー機で攪拌した際に、酸味や苦み等が強調されたり、食材によって粘りが強くなったりするものを見直し、改善する。

#### ④看取りケアの向上

最期の時まで心穏やかに過ごしてもらえるよう、引き続き、多職種連携による利用者へ寄り添った食事ケアを行う。

### 3. 災害等（非常時）の対策と地域貢献

①備蓄食料（非常食）や備品の補充と整理整頓を継続的に行う。

②災害時や食中毒事故発生等非常時のマニュアルの整備を行う。